

## 第6回地方独立行政法人鳥取県産業技術センター評価委員会議事録

※対応の（ ）内は回答者

会議の名称：第6回地方独立行政法人鳥取県産業技術センター評価委員会

開催の日時：平成20年3月24日 午後2時～4時半

開催の場所：鳥取県庁 特別会議室

出席者氏名：別紙出席者名簿のとおり

会議の概要：以下のとおり

### 1. 「評価の基本方針」について

委員	主な意見	対応
辻委員 中村委員	修正案について、了解	「地方独立行政法人鳥取県産業技術センターの各事業年度の業務実績評価（年度評価）方針及び方法」のとおり、決定する (千葉委員長)

### 2. 達成状況の5段階評価について

委員	主な意見	対応
谷口委員	異論なし	「業務実績評価における評価基準について(案)」のとおり、決定する (千葉委員長)
辻委員	具体的な数字が入ってわかりやすくなった	

### 3. 産業技術センターの自己評価について

#### ○特記事項の記載単位について

委員	主な意見	対応
中村委員	提案内容は、特記事項の記載単位を細分化しすぎると、具体的に記載することが難しくなるため、ある程度項目をグループ化して記載してはどうか、というもの。 事務局対応案はそのようになっており、異論なし	「特記事項の記載については、産業技術センターの業務の中核となる「Ⅱ 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項」については中項目単位で記載し、他の項目については大項目単位で記載するものとする」と、決定する (千葉委員長)

#### ○外的要因の提示について

委員	主な意見	対応
千葉委員長	「外的要因については、物価変動などである程度判断できると思う。」ということであったが、具体的にはどのように対応するのか	○産業技術センターにおける利用状況の分析結果 ○商工労働部で把握している、経済状況等の情報
谷口委員	現在、円高が進んでいるが為替レートが10%変われば、企業を経営しているものにとっては大変大きなこと。環境問題にしても更なる改善をすることは大変労力が必要なこと。このようなことを各委員に認識してもらいたかった	外部要因の提示については ・可能な限り詳しい情報を提示する ・問題があれば評価委員会で協議して決定すること、と決定する。(千葉委員長)

#### 4. 評価委員会の評価について

委員	主な意見	対応
千葉委員長	評価委員が自己評価に疑問がある場合はどうすれば良いか。	自己評価の裏付けとなる資料の提出を求める（千葉委員長）
中村委員	自己評価の裏付けとなる資料も提出してほしい	

#### 5. 項目別評価について

##### ○数値目標の難易度について

委員	主な意見	対応
谷口委員	数値目標のある項目についてどのように評価すべきか。目標数値がどの程度の難易度なのか。目標を達成して当然という程度なのか。	

##### ○評価項目のウェイト付けについて

委員	主な意見	対応
辻委員	重要な項目と重要でない項目とあると思うが、ウェイト付けをしないとイケないのではないか。	
千葉委員長	ウェイト付けはよくわかった。どこを重視しているのかある程度ははっきりしたのではないか	
中村委員	数値化されたので、センターの活動の中で何をどれだけ重視するのかははっきりした。 業務の見直しをすると、来年、再来年になるとこのウェイト配分が変わっていくと思うが。	企業の要請に応えるような業務のウェイトが高くなっているが、このようなウェイトの付け方に対して意見はあるか（千葉委員長）
辻委員	サービスを提供するには自分たちに力量が必要である。自分たちの力量を上げるために研究をしていると思うが、この期は研究に重点を置くとか、センターの業務として何を重視しているのか職員全員が共通認識を持つなどの、法人の現れとしてウェイト付けはすべきだと考える。 全項目にわたってウェイト付けをしたので、ウェイトの小さいものはやらなくてもいいのか、とってしまう。 センターの業務の重要課題はどこなのかを認識するためにもっと大きな単位でウェイト付けをするべきだ。(30:30)	人的資源の配分を示してもらったので、評価委員会として、資源配分の厚いところを評価の重点配分を置くこともできると思う。 柔軟性も必要であり、特記事項でよい業績が見られれば、規定のウェイトに限らずプラスのウェイトをつけることも可能かと考える。 評価委員として、事務局が作成したウェイト付けは一つの目安として活用し、最終的には評価委員会において決定する、ということでよいか (千葉委員長)

中村委員	37項目にわたりウェイト付けをされているので、各項目を評価すれば自動的に全体の評価になるのではないか。その場合フレキシビリティに欠けるが	恣意性を排除するためには一定のウェイト付けは必要。しかし、あるところで優れた業績が出てきたことも無視できない。一定のウェイト付けに基づき評価した上で、優れた業績があるようなものについては、別途評価委員会で決定してもいいのではないかと考える。 まとめとして、事務局案をひとつの目安として最終的には評価委員会で定める、としてはどうかと考えている。 (千葉委員長)
谷口委員	委員長案に反対するわけではないが、このやり方では何もでてこない。産業振興ということにウェイトをおいて、何か新しいモノを生み出すという取組を評価しないといけないと思う。	
辻委員	研究開発の項目と、知的財産権の取得、新事業の創出に向けた産学官連携などが離れた項目として扱われている。研究開発の成果の評価につながるようなものはひとつにまとめて、必死に研究開発をして新しいものを生み出していくということでまとめて、ウェイトを高くしていかないといけないと思う。	項目をまとめることは、計画を修正することになり、再度議会に諮ったりする必要があるので難しいが、評価をするにあたって項目をまとめてウェイト付けすることは可能（中村委員）
中村委員	大項目のⅡが66%、その他が34%となっている。企業で言うところの直接部門と間接部門に相当すると考えられるが、これからは、直接部門の66%をどう高めていくかという、議論が必要ではないか。コンプライアンスとか職員の意識改革などの項目については、来年度以降評価項目から落とし、他にウェイトを置くなど考えてはどうだろうか。	現実的には、評価委員会で評価を実施しながら、ある程度集約し、来年度の評価については県民へのサービスの提供等の部分に集中し、コンプライアンス等については、よっぽどのことが起きない限り是とする、という話になると考えられる。
		37項目の評価項目、ウェイト付け等については、事務局案を是とし、最終的なウェイト付け等については、評価委員会で協議して決定、と決定する (千葉委員長) 今年度は今年度の理屈で実施、来年度は今年度を踏まえて対応
中村委員	数値目標の数値のカウント方法について、意味がある数字になるように、考え直そうということを議論している。このことを忘れないように、実施する。	

○数値目標の難易度について

委員	主な意見	対応
千葉委員長	数値目標の設定について、12月末現在の数字を見ると、機器利用などは200%の増となっている。過去3年間の平均というのは何を示した数字なのか？どれだけの稼働率だったのか？極端に数字が動いた時は、その数字の背景をしっかりと出していかないと、議論が紛糾する。数字そのものだけでなく、数字の変動要因についても、しっかりと提出していただきたい。	

6. 全体評価について

○利用者の意見の反映方法

委員	主な意見	対応
副井委員	これのために新たにアンケートを行うものではないのか	そのとおり、今年度既に11件の講習会を開催している（徳村部長）
千葉委員長	データはまとめた形ででてくるのか	項目別にまとめたものの提出を検討している
副井委員	例えば、依頼試験に不満があったとか、技術相談に行ったが不満があるとか、そのような情報はあるのか	
中村委員	委員個人が各種会合との場で収集した意見はどのように取り扱うのか？アンケートなどのようにエビデンスが必要か？	評価委員の中で議論するには、そのような生の声があったほうがいい（千葉委員長）
		産業技術センターにおいても1000社の企業訪問しているので、その生の声を反映できていると安心できる。限られた企業の声だけでは、声なき声が聞こえなくなる。よい方法を検討していただきたい（岡村次長）
		資料の最後に、「(3) 評価委員独自の情報収集等、多様なルートによる意見収集」を加えること。（千葉委員長）
中村委員	意見徴収 → 意見集約 に	

○10段階評価の方法

委員	主な意見	対応
中村委員	全体評価にあたり5段階→10段階評価にする際に単純に2倍にするのではなく、2倍マイナス1とし、特筆すべき事項がある場合は1段階上下させることにすべき。単純な2倍方式だと、5段階で3（平均）だったものが、10段階で6（平均以上）になってしまう。同様に5だったものは10になってしまい、自動的に最高評価になってしまうため。	了解済み

## 7. 評価の進め方について

委員	主な意見	対応
中村委員	項目別評価を行うに当たって、自己評価のほかに、関連資料も送付いただけるのか	関連資料も含めて送付する予定。 ※資料の返信用の送り状を添付のこと

## 8. その他

委員	主な意見	対応
谷口委員	機器利用時間が8400時間となっているが、稼働率ほどの程度なのか。 フル稼働する機器が1台あれば2000時間稼げる。どのようなものがベースとなって8400時間を出しているのか。	全体の稼働率については計算してみないとわからない。 機器利用だけでなく、研究開発にも利用しているので、機器の活躍度は出てこない。
谷口委員	きちんとした評価尺度がでてこない、単に数字を出されても、評価ができない。	技術相談、機器利用については、企業の景況等に大きく左右されるものであり、数値目標の評価に、評価基準を単純に当てはめるものではないと、考えている。(徳村部長)
辻委員	特許出願の数がすごく少なく感じるが、実際にはもっと特許になるような研究やデータなどのネタがあると思う。	
谷口委員	特許とせずに、工業所有権として意匠なども含めたらどうか	
辻	特許になるものの考え方が違う。アドバイザーがひとりいると随分変わってくと思う。 大発明でなくともよいのもっと出すべきだ	長野精密工業試験場は、共同出願がベース。すべて企業に書かせて、権利化したあと実施収入が入ると、必要経費を免除するようなことをしている。特許件数を増やすのは知恵の出どころだと思う。(岡村次長)
千葉委員長	なんで出願件数が低いのか、しっかり理由の提出をお願いする。	
谷口委員	出願件数が極端に少ないのは、パテントがなくても会社がつぶれないからだ	来年度は新たらしい評価の視点としても検討が必要(千葉委員長)

## 9. 法人の役員報酬基準について

委員	主な意見	対応
		評価委員会としては、意見無しとする。(千葉委員長)

第6回地方独立行政法人鳥取県産業技術センター評価委員会 出席者名簿

【委員】

区分	氏名	所属名	役職名
委員長	千葉 雄二	財団法人とっとり政策総合研究センター	調査研究ディレクター
委員	谷口 義晴	日本セラミック株式会社	代表取締役社長
委員	中村 宗和	国立大学法人鳥取大学	名誉教授
委員	副井 裕	国立大学法人鳥取大学	学長補佐
委員	辻 智子	株式会社ファンケル	取締役執行役員 医薬事業開発室長

【地方独立行政法人】

氏名	役職名
徳村 純一郎	地方独立行政法人鳥取県産業技術センター企画管理部長
門脇 互	地方独立行政法人鳥取県産業技術センター企画管理部企画担当参事

【事務局（鳥取県）】

氏名	役職名
岡村 整諮	商工労働部次長
中山 孝一	商工労働部産業開発課長
林 俊一	商工労働部産業開発課産学金官連携室長
森田 厚史	商工労働部産業開発課産学金官連携室副主幹